

支援情報等のお知らせ

- 子ども・若者支援協議会からのお知らせ
 - 1 社会で生きにくさや働きにくさを感じている方のアンケート調査
 - 2 「県・市町村青少年相談担当職員東毛地区研修会」申込受付中
- 自立支援に関するイベント等の情報
 - 3 就職準備で悩んでいる生徒・学生、保護者のためのセミナー
 - 4 ひきこもり家族教室『生活を豊かにする』
 - 5 県消費生活センター「子ども・若者向け支援情報シリーズ58」
- 民間活動団体等の紹介
 - 6 伊勢崎市（一社）なちゆるるふあ一むSUN 就労移行支援事業所

1 社会で生きにくさや働きにくさを感じている方のアンケート調査

県では、学校や社会で、生きにくさや働きにくさを感じている方の支援に向けた「子ども・若者の自立支援ガイド」を作成するにあたり、学校を離れて社会に出てから、支援者・機関につながって、現在、何らかの形で社会生活を送っている方を対象に、当事者の体験や考え方について、オンラインでアンケート調査を実施しました。
調査の概要は下記のとおりです。

【調査概要】

期間：令和8年5月12日（火）～6月8日（月）

調査項目

- ・基礎情報 年齢、性別、最後に所属した学校（卒業・中退）
- ・支援機関や支援者とのかかわり
相談のきっかけ、その理由や目的、役立ったことなど
- ・現在の状況
社会との関わり、期待する支援やサポートの内容など
- ・学校時代のこと
学校への行きづらさ、過ごしづらさ
学校で受けた支援内容 自分の支えになった人
期待する働くことについての支援内容（自由記述）

【調査対象】 下記の相談支援機関

※ぐんま若者サポートステーション、障害者就業・生活支援センター、
県発達障害者支援センター、県ひきこもり支援センター、就労移行
支援事業所、各種支援機関・団体・者などを通じて、利用者の方に
回答の協力を呼びかけていただきました。

【調査期間内の回答数】 112名

【調査結果】 下記をご覧ください

<https://www.pref.gunma.jp/page/765559.html>

注) この調査結果は、

「県・市町村青少年相談担当職員東毛地区研修会」で取り上げます。

【問い合わせ先】

群馬県 私学・青少年課 青少年育成係

電話 027-898-3557

e-mail kowaka-shien@pref.gunma.lg.jp

県子ども・若者支援協議会では「若者は何故、社会で生きにくさを感じるのか、働くことへの不安とは何か」をテーマに、下記のとおり研修会を開催します。

人は何故、学校や社会で生きにくさを感じるのだろうか、それはどんな時なのだろうか。自分の得意なことを活かして物事にチャレンジしたり、苦手なことを知って上手く切り抜ける経験をしたり、抱えた心配や不安を周りの人に言葉で伝えることができたなら、学校や社会で円滑な生活を送ることが出来るのではないだろうか。

研修会では、どのような視点で支援に携わればいいのか、支援のつながりをどのように行えばいいのかについて考えていきます。

■日時 令和8年7月16日(木) 13:00~16:40 ※開場12:00

■会場 ぐんま未来大学ホールPAL (笠懸野文化ホール)

みどり市笠懸町阿佐見1579番地1

■テーマ「若者は何故、社会で生きにくさを感じるのか、働くことへの不安とは何か」
～ 当事者の円滑な社会生活に向けた学校から社会への支援のつながりを考える ～

■内容

第1部 問題提起

①若者が感じている「社会での生きにくさ、働くことへの心配や不安」

ア) アンケート結果から見える若者

臨床発達心理士/公認心理師 中澤 由梨氏

NPO法人リンケージ、ぐんま若者サポートステーション、

群馬県教育委員会委員

イ) 産業医から見たグレーゾーンの若者

医学博士 岡田 恭典氏

産業医 多機能事業所SUN-Works就労定着支援員

②就労支援の現場から捉えた当事者の心配や不安、必要な支援

ア) 若者サポートステーションに訪れる若者

ぐんま若者サポートステーション 唐澤 文彦氏

イ) 就労移行支援事業の現場

一般社団法人 ワークスタジオ群馬 理事 笠井 勇哉氏

ウ) 不安を抱える若者が働き続ける職場

株式会社ヒルズ伊勢崎 代表取締役 石原 秀樹氏

(群馬県中小企業家同友会 障害者雇用委員長)

第2部 意見交換「学校から社会へ向けた支援のつながりを考える」

学校生活で生きにくさ、学校への行きづらさを感じた経験を持つ

子ども・若者にとって、学校を離れて社会で自分らしい生き方や働き方を実現するまでに、多くの心配や不安を抱えていることが多い

状況です。

そうした当事者を支援するために何が必要かについて意見交換を

行います。

コーディネーター：前橋国際大学地域社会学部教授 上原 篤彦氏

パネリスト

NPO法人リンケージ 中澤 由梨氏

産業医 岡田 恭典氏

ぐんま若者サポートステーション 唐澤 文彦氏

ワークスタジオ群馬 笠井 勇哉氏

株式会社ヒルズ伊勢崎 石原 秀樹氏

助言者：みどりクリニック院長 鈴木 基司氏

■申込み 定員300人(先着順)

フォームのURL(インターネット)

<https://logofrm.jp/form/9cfD/1561633>

■問合せ先

群馬県子ども・若者支援協議会(県私学・青少年課青少年育成係)

3 8/3 就職準備で悩んでいる生徒・学生、保護者のためのセミナー

近年、「働きたいのに働けない」「働くために、何をしたらいいのかわからない」といった悩みを抱えている若者が増えているそうです。

障害者就業・生活支援センター「エブリィ」では、夏休み期間中、グレーゾーンの若者（高校生や専門学校生、短大生、大学生など）及びその保護者を対象にした就労準備を支援するセミナーをハローワーク高崎と共催で開催します。

- 【こんな不安や困りごと、ありませんか？】
- ・社会に出たら相談できる場所はあるのかな
 - ・人と話すとき緊張する…
 - ・教えてもらっても忘れてしまう…
 - ・空気を読むのが苦手…
 - ・働けるか不安… など

困りごとを強みに変えてみませんか？、就活中も、就職後も、いろいろな支援があります。＜参加無料＞

【セミナーの概要】

日時：8月3日（月）13:30～15:30 （13:00開場）
会場：高崎市労使会館 3階ホール（高崎市東町80-1）
駐車場は労使会館北側またはプリンス駐車場（旭町138）
を利用（3時間無料）
対象：高校生、専門学校生、短大生、大学生、その保護者など
※在学中でない方も参加いただけます

内容

- 第1部 各支援機関の説明
「こんな時はどこに相談？」
第2部 直接聞いてみよう！
「各ブースを回り 説明を聞く」

主催：高崎公共職業安定所
（ハローワークの対象エリア外の方も参加が可能です）

【参加する機関】

高崎公共職業安定所、高崎公共職業安定所安中出張所、
群馬障害者職業センター、群馬県発達障害者支援センター
障害者就業・生活支援センター エブリィ
ぐんま若者サポートステーション、
高崎市障害福祉課 高崎市基幹相談支援センター
就労移行支援事業所、群馬中小企業家同友会

【申込方法、問合わせ先】

申込は、下のURL（グーグルフォームに移動します）
または下記の電話かEmailでお願いします。

申し込みフォーム
<https://forms.gle/YhVK965arc1htKAq7>

障害者就業・生活支援センター エブリィ
TEL：027-361-8666
Email：every@harunago.jp

4 7/28 ひきこもり家族教室『生活を豊かにする』

ひきこもり支援センター（県こころの健康センター内）では、ひきこもりに悩んでいるご家族を対象に家族教室を開催しています。

ひきこもりに関する知識や情報、ちょっとした声かけの工夫などを学ぶことで、ご家族自身の気持ちにゆとりが生まれ、本人との関係性が変化していきます。

【参加者の声】

「皆さんのお話から元気をいただいた」
「工夫できるところが見つかった」
「気持ちに余裕が持てるようになった」
「選択肢が広がった」 etc...

■教室の内容はCRAFT（認知行動療法）を参考にしています。

「家族の気持ちの安定が、本人の気持ちにも影響を与え、本人の状態が良くなる」という研究結果があります。

■初めての方は個別の相談をお受けした後に、必要に応じて

教室をご案内しています。参加をご希望される場合は、下記連絡先までご連絡ください。

■家族教室で使用するテキストは県ホームページに掲載しています。

こちらからダウンロードしてください。

<https://www.pref.gunma.jp/page/632294.html>

【7月の家族教室】

教室：7月28日（火） 第4火曜日 13:30～16:00

内容：『生活を豊かにする』

前半：家族教室 13:30～15:00（受付13:00）

後半：家族の居場所 15:00～16:00（受付14:30）

◆ご家族同士で感想等をお話しする時間です。

◆前半「家族教室」に参加したことのある方は、

後半「家族の居場所」のみの参加も可能です。

会場：群馬県こころの健康センター（前橋市野中町368）

連絡先：ひきこもり支援センター

専用ダイヤル 027-287-1121

月～金 9:00～17:00（祝日・年末年始は除く）

※電話が集中した場合つながりにくいことがあります。

■支援者の方の参加もお待ちしております。

※支援者の方は 027-263-1166 へお願いします。

5

群馬県消費生活センター「子ども・若者向け支援情報シリーズ58」
花火によるやけどに気をつけましょう

夏は花火の季節です。ご家族やご友人と家庭用花火を楽しむ機会もあることでしょう。そんな時に思わぬ事故に遭わないよう、今回は家庭用花火を楽しむ際に注意するポイントを紹介します。

【注意のポイント】

- ・花火によるやけどは、1歳～3歳の子どもで多くなっています。花火で遊ぶときは必ず大人が付き添いましょう。
- ・3歳以下の子どもに花火を持たせることは避け、距離を置いて見せるなどして楽しむようにしましょう。
- ・地面に置くタイプの花火は、倒れると周囲の人に向かって花火が飛び出すおそれがあります。倒れないようにまっすぐにしっかり立て、点火後素早く離れましょう。
- ・花火の風下には行かないようにしましょう。また、風が強い場合は中止も検討しましょう。
- ・肌の露出が多い服や履物の場合、火花等でやけどしてしまう危険性が高まります。裾が広がった服などに着火する事故も起きていますので、服装にも注意しましょう。万が一着衣に着火した場合の対処法も事前に確認しておきましょう。
- ・消火用の水は必ず用意しましょう。
- ・製品に記載されている注意事項を確認しましょう。

★こまったら、まず相談！！

消費者ホットライン「188（いやや）」

※最寄りの消費生活センターを案内する全国共通3桁の電話番号です

《お問い合わせ》

群馬県消費生活センター 027-223-3001

<https://www.pref.gunma.jp/page/8392.html>

6 民間活動団体等 伊勢崎市（一社）なちゆるるふあーむSUN

一般社団法人なちゆるるふあーむSUNは、多機能型事業所SUN-Worksとして、2つ以上の異なる福祉サービスを同一敷地内で一体的に提供しています。

私たちの事業所は、長年ASD（自閉スペクトラム症）の早期支援に携わってきた小児科専門医・産業医の「社会へ立ち向かうときこそ、一人ひとりの特徴的な学習スタイルに合わせた専門的支援が必要」という確信のもと、2021年10月に設立されました。

就労定着を見据える上で生活基盤の確立が不可欠であると考え、2023年12月に現在の伊勢崎市へ移転・多機能化しています。

SUN-Worksの核心は、徹底した「エビデンスに基づくアセスメント」と、それに応じた環境設定にあります。Vineland-IIやTTAP、BWAP2などの客観的指標を用いて特性や環境との相互作用を精緻に分析。評価において良い・悪いのジャッジをせず、「ありのままの事実」を共有することで、本人の深い自己理解とセルフモニタリング能力を促します。

私たちは強みを生かして苦手を補う「構造化された支援」のなかで、一人ひとりが「できること」をする。そうして確実な成功体験を積み重ね、未来の進路を自ら「選択・意思決定」できるよう、環境設定と調整を全力でサポートします。

【事業内容】

- ・就労選択支援：作業場面等を活用し、就労能力や適性を客観的にアセスメント。本人が主体的に進路を選べるよう意思決定を支援します。
- ・自立訓練（生活訓練）：自立課題プログラムや健康相談を通じ、生活リズムの安定と自己管理の基本スキルを養います。
- ・就労移行支援：個々の学習スタイルに合わせた模擬作業や豊富な企業実習により、具体的な職業行動を実践的に習得します。
- ・就労定着支援：就職後の課題に対し、本人および企業双方へタイムリーに介入・調整し、自分らしく働き続けられる環境を構築します。

多機能型事業所SUN-Worksの詳細はHPをご覧ください。

<https://sunworks.jp/>

* 法人理事の産業医：岡田恭典氏には「県・市町村青少年相談担当職員東毛地区研修会」（7/16 笠懸野文化ホール）で産業医から見たグレーゾーンの若者についてお話ししていただきます。



次号は、2026年8月中旬を予定しています。

本メルマガを、皆様の周りの方にも周知いただければ幸いです。
また、子ども・若者支援に関する情報等の提供もお待ちしています。

メルマガを新規で受信希望する方は、「所属・氏名・メールアドレス」を『kowaka-shien@pref.gunma.lg.jp』までお送り下さい。

群馬県子ども・若者支援協議会

▼ 事務局 群馬県前橋市大手町1-1-1 群馬県生活こども部

私学・青少年課内（県庁舎 12階南フロア）

- ▼ TEL 027-898-3557
- ▼ e-mail kowaka-shien@pref.gunma.lg.jp
- ▼ HP https://www.pref.gunma.jp/soshiki/50/#sp_headline_3
県HP「子ども・若者への支援」